

領 収 証

№ 034843

菅原 達 様

領収金額 44,000-

上記の通り領収致しました

令和4年4月13日

収 入
印 紙



やじま印刷株式会社

〒327-0003 栃木県佐野市大橋町1105
TEL (0283) 22-6428(代)
FAX (0283) 24-7247

現金	44,000	円
小切手		円
振込		円
手形		円
		円

すがわら通信 第27号 印刷代と17

領 収 証

№ 035300

菅原 達 様

領収金額 41,800-

上記の通り領収致しました

令和4年10月28日

収 入
印 紙



やじま印刷株式会社

〒327-0003 栃木県佐野市大橋町1105
TEL (0283) 22-6428(代)
FAX (0283) 24-7247

現金	41,800	円
小切手		円
振込		円
手形		円
		円

すがわら通信 第28号 印刷代と17

領 収 書

令和 5 年 1 月 27 日

菅原 達 議員

金 額
(消費税込)

425円

「男女共同参画ネットワークさの」との議会報告会費用分担金として、上記の金額を領収しました。
(令和4年12月21日報告会開催)

佐野市議会報告会運営委員会委員長 小倉 健





命を守り全ての人を大切にする街へ！

市民相談等、お気軽にお声掛けください！

菅原 達

検索

ホームページ更新中



議 会 報 告

＜令和3年12月定例議会の一般質問の要旨＞

質問 1 行政のデジタル（オンライン）化の推進について

(1) 電子申請システム拡充に向けた取り組みについて

自宅や会社のパソコン等から各種申請・届け出を可能とする『電子申請システム』の拡充の今後の取り組みは？

答 弁 簡易的な手続から順次オンラインサービスを広げてまいります



(2) 公共施設案内・予約システムの電子納付・決済の実施に向けた取り組みについて

利用申請・許可使用料支払いまでの手続をオンラインで可能とする『電子納付・決済』の実現は？

答 弁 システムの使い勝手やほかの民間事業者の提供するシステムを比較しながら導入を検討してまいります

(3) 不登校や病気療養中の児童生徒へのオンライン学習の推進について

昨年6月議会、本年2月議会において、コロナ禍が収束した後の不登校や病気療養中の児童生徒に対する学びの保障が与えられるか問いかけたが、オンライン学習の推進について今後の取り組みは？

答 弁 臨時休業後も、不登校状態にあった児童生徒も含めて、出席停止等への児童生徒への授業配信のため、市内17校へ端末貸出しを延長し、現在も複数の学校で利用している。今後も、不登校や病気療養中の児童生徒や保護者のニーズを踏まえ、積極的に活用するよう働きかけたい

質問 2 地域住民が共に支え合う体制づくりについて

(1) 地域の社会資源を活用した生活支援等のサービスの充実について

NPO法人「植野たすけあい」のような取り組みを市内全地域に展開できるよう、行政主導で地域の社会資源を活用した生活支援等のサービスの充実に努めるべきでは？

答 弁 地域ごとに計画性を持って、住民主体の取組につなげられるよう、積極的に支援をしてまいります



(2) コロナ禍でダメージを受けた地元事業者を地域で守り支える環境づくりについて

地元の事業者は大切な地域資源であるとの観点から、その地域資源が失われないよう、地域で守り支える環境づくりを行政が主導すべきと考えるが？

答 弁 安心認証グルメマップを作成し、シールラリーなどのイベントによる市内全域への回遊・消費拡大につなげてまいります

質問 3 地域の事業者を守り支える上での行政のあり方について

(1) 一般廃棄物収集運搬業における既得権の見直しについて

半数以上が市外事業者である既存の事業者を既得権で護ることは、地域課題の解決、地域資源の育成、及び行政の平等性から改めるべきで、社会的な課題として今後需要が見込まれる空き家の片づけや、遺品整理を地域の事業者が行うに際し、計画性を持って新規参入を促すべきでは？

(2) 入札における地元企業優先の考え方について

地域密着型の事業の入札においては、日頃から地元との関わりを持つ地元企業を優先すべきでは？

答 弁 公平性、透明性、競争性のある入札を確保しながら、市内業者優先で入札を執行してまいります



質問 4 フレイル予防の推進について

フレイル予防の周知及び、受診率の向上を推進し予防の取り組みを継続させる配慮が必要では？

質問 1 公共施設へのWi-Fi環境の整備について

(1) 地区公民館へのWi-Fi環境の整備の重要性について

指定避難所へのWi-Fi環境の整備をお願いするが、特に地区公民館については、防災・減災の目的に加え、平時におけるデジタル社会とコロナ禍に適応した生涯学習の推進拠点の観点から、優先的にWi-Fi環境の整備を推進すべきと考えるが？

答弁

非常時は必要な情報収集、伝達手段が確保でき、平時では様々な学習活動での活用が考えらる。平時時の有効な活用方法を考慮しながら検討してまいりたい



(下野新聞に掲載)



質問 2 避難所への非常用電源の導入について

(1) 指定避難所における非常用電源の必要性について

指定避難所での（人工呼吸器などの）医療的ケアの継続、また、冷暖房やスマートフォンの充電などの非常用電源の確保の必要性についてどう考えるか？

答弁

避難所機能を維持するために大変重要なものであると認識している

(2) 福祉避難所における非常用電源の確保と体制づくりについて

医療的ケアが必要な方に対しては、非常用電源の全体の容量が不足するなどの理由で医療機器が使えないということは、命の危険に及ぶ重大な問題であり、極力回避しなければなりません。

個別計画の中であらかじめ非常用電源の必要な方を把握し、その方が避難する福祉避難所を指定避難所と定め、そこに非常用電源を確保させる。その上で一次避難としてそこに直接避難する体制を作ることで、安定的な非常用電源の確保につながるものと考えているか？

答弁

議員ご指摘の通り、効果的な対策であると認識している。今後個別計画策定に際し、医療的ケアが必要な方に福祉避難施設への直接避難への意向聴取など体制基盤の整備を図りたい

(3) 電気自動車の活用と公用車のEV化の推進について

大規模災害などの被災の状況によっては、災害連携協定を締結していたとしても、メーカー自身の被災や需要の殺到などにより、電動車を必要数確保できないことが想定される。

指定避難所における非常用電源の確実な確保につなげるためにも、現在行われている民間との災害連携協定を拡充するなどの電気自動車の活用と、公用車のEV化を推進すべきと考えるか？



答弁

電動車からの電力供給に関する協定は、今後も推進してまいりたい。また、公用車のEV化については、議員ご提案のとおり、環境に優しく、災害時は電源供給の確保にもつながりますので、今後の公用車更新の際は、一定の割合で導入を進めてまいりたい

質問 3 放課後児童健全育成事業の適正化と質の確保について

運営の形態を問わず、全ての放課後児童健全育成事業において、質の確保を持続可能なものにするためには、行政による財政面での支援が必要だと考える。

運営に対する財政面での支援が難しいのであれば、せめて利用者の負担の適正化を図るための財政面での支援ができないものか？

答弁

公立、民立ともに持続可能な放課後児童クラブを運営していくために、利用者の負担の適正化に向け検討してまいりたい



質問 4 オンライン学習の在り方について

授業に参加できない児童生徒との同時双方向型のオンライン授業は理想であり、それにより学びの時間を共有するとともに、学びを止めないことを目指していただきたいと考えるか？

答弁

理想としては、端末を使って授業をライブで流すことを常に学校に指示しているが、休業状況の実態に応じ、学校で一番ふさわしい学習方法を取り入れて、子供たちの学びをとにかく確保していくことに努めているところである





命を守り全ての人を大切にする街へ！

市民相談等、お気軽にお声掛けください！

菅原 達 検索
ホームページ更新中



危機管理型水位計

議 会 報 告

<令和4年6月定例議会の一般質問の要旨>

質問 1 危機管理型水位計について

(1) 未設置河川への設置含めた増設について

危機管理型水位計の、未設置河川への設置を含めた増設が必要では？

答 弁 越水・溢水の可能性が高い箇所への設置を県に要望してまいりたい

(2) デジタル技術の活用について

水位のデータと山間部での降雨量のデータなどを人工知能で解析するなど、デジタル技術の活用によって、より個別で詳細な情報の発信につなげられると考えるが？

答 弁 個別で詳細な情報発信はもとより、記録的短時間豪雨による河川氾濫の危険性を未然に把握し、避難指示などの意思決定に極めて有用であると考え

(3) 市民への周知について

必要な水位情報をスマホなどで確認できることを、市民に広く周知すべきでは？

答 弁 市ホームページへの掲載や広報チラシの配布、防災講話等の機会において周知啓発を図ってまいりたい

質問 2 地の利を生かした安全・安心な拠点づくりについて

本市が有する地の利に加え、エネルギー供給の自立化としての自治体P P Sやバイオマス発電等による電源の継続的確保、石油備蓄等エネルギーのインフラの確保により、災害時に安全、安心な拠点となり得るのでは？

答 弁 国内外を含めた広域的なバックアップ機能を有した国際防災拠点の整備の検討を進めている。引き続き、本市の恵まれた地域特性を生かした安全、安心な拠点づくりを進めてまいりたい

災害時に安全、安心な拠点づくりにより、若者を始めとする首都圏からの移住・定住、さらに首都圏の重要な機能の移転や災害関連分野等の企業、機関等の誘致を促すことができるのでは？

答 弁 ご指摘の通り、移住や定住の拠点として選ばれる佐野市づくりにつなげられると認識している



質問 3 犬伏街道など市街地の渋滞緩和について

(1) ソフト面での対応について

信号機のAI対応、時差通勤、フレックスの活用、また、通行規制及び通学経路の見直しなどの安全を第一に考えた上での交通の分散など、ソフト面での対応も検討すべきでは？

答 弁 ソフト面での対応は渋滞緩和に一定の効果があると考え。今後、道路管理者や警察等関係機関と検討してまいりたい

(2) 犬伏街道沿いの既存路線の整備について

犬伏街道周辺の整備がなされることで、犬伏街道の渋滞緩和を図ることができると考える。市として、この北側に並行する既存路線の狭隘部分の拡幅整備を進めるべきでは？

答 弁 東西方向への移動が容易になり、地域住民が犬伏街道の渋滞箇所を回避できると考える



(3) 高速道路を活用した市街地の渋滞緩和について

南北に立地する工業団地と居住地域との通勤時の渋滞緩和として、通勤時間帯に限り通行料の減免措置を設け、南北を結ぶ高速道路の利用促進を図ることで、交通量の分散を図ることができるのでは？

答 弁 既存インフラの活用による地域の課題解決は、持続可能なまちづくりの上から重要で、今後研究してまいりたい

質問 4 手話通訳者の育成支援について

講座受講費用は現在自己負担となっているが、手話通訳者の育成支援の観点から、全面的に助成すべきでは？

答 弁 受講費用の助成につき、今後検討してまいりたい

質問 1 地球温暖化対策における緩和と適応の取組について

(1) 市街地の緑化の推進について

街路樹や公園の整備など、地球温暖化の緩和と適応を目的とした市街地の緑化を推進すべきでは？

答弁

地球温暖化の緩和等に有効であると考えているが、草や落ち葉、害虫をはじめ強風による倒木への不安など、市民の皆様から多くの意見やご要望がある



要望

緑がもたらす効能や落ち葉が腐葉土として生かされることなど、プラスの側面もあることや、地球温暖化への緩和と適応の重要性への理解を促し、取って身近な問題からの意識啓発を行政が先導していただきたい

(2) 戸建住宅の庭先への植樹の推進について

温暖化の緩和と適応を目的とし、戸建住宅の庭先への植樹を推進すべきでは？

答弁

地球温暖化対策に一定の効果があると考えておりアクションプランの一つとして検討したい

(3) 水を活用した取組の推進について

特に熱中症予防の観点から、市民に小まめな水分摂取を推奨するとともに、地区公民館などで避難や給水ができるような環境整備の重要性についてどう考えるか？

答弁

熱中症対策として、庁舎や地区公民館などを緊急避難場所として活用できないか、併せて飲料水の提供ができないか検討してまいります

(4) クールシェアのまちづくりの推進について

日本一暑い佐野が暑いというマイナスイメージをプラスに転じ、それを生かしたまちづくりを推進することで、市民への環境の意識啓発と市内外への本市の魅力の発信につなげられるものと考えている。

市民や観光客に暑いまちのマイナスイメージから転じたプラスを実感していただくため、緑化の推進や水の活用に加え、公共や民間の施設でクールシェアできるまちづくりを推進すべきと考えるが？

答弁

公共施設や民間施設を活用したクールシェアの取り組みはカーボンニュートラルの実現に向けたまちづくりである。アクションプランの取組として検討してまいります

解説

※クールシェアとは…

1人当たりのエアコン使用を見直す考え方で、具体的な取り組みとして一部屋に集まり家族団らん

⇒【おうちでクールシェア】

ご近所のお宅に集まりおしゃべり

⇒【ご近所でクールシェア】

木陰や水辺等の涼しい場所で過ごす

⇒【自然でクールシェア】

パブリック空間やカフェなどを提供

⇒【まちでクールシェア】

質問 2 避難所の体制整備について

(1) 県立高校の指定避難所化について



市内の県立高校を指定避難所として活用することの重要性を踏まえ、指定に向けた課題と今後の対応について伺う

答弁

指定避難所化に向け、県の防災部局や学校関係者と協議を行い、現状把握と課題の抽出を図ってまいります

(2) 地元町会の公民館の一時避難場所としての活用について

避難所としての活用の現状と今後の対応について伺う

答弁

資器材確保の助成を行い、一時避難場所が災害時の共助の拠点となるよう支援してまいります

質問 3 ハイブリッド型授業の推進について



(1) ハイブリッド型授業のメリットについて

ハイブリッド型授業は、コロナ禍に限らず、病気療養や不登校など様々な状況下でも、本人が望む限りその児童生徒に最もふさわしい授業形式を用い、学びを継続させることができると考えるが？

答弁

希望に応じて対面での授業とオンライン配信を同時に行うハイブリッド型の授業を行うことで、学びの保障ができるというメリットがあると認識している

(2) ハイブリッド型授業の普及促進について

学校間やクラス間で格差を生まないためには、学校主体ではなく、教育センター主導でハイブリッド型授業の普及促進を図るべきと考えるが？

答弁

1人1台端末の効果的な活用に向けた指針を策定し、市としての考えと方向性を示した。この指針の下、ハイブリッド型授業を含めた児童生徒への学びの保障に努めてまいります

質問 4 公共施設へのWi-Fi環境の整備について

施設の規模や利用の目的及び利用の頻度に応じたスペックの選定、移動式Wi-Fiによる柔軟な運用により、費用を最小限に抑えた環境整備ができると考えるが？

答弁

地区公民館は優先度が高い施設の一つとして多角的に検討してまいります